

2010年10月資料展示

<新聞の今昔>

毎年10月の中旬は秋の「新聞週間」です。現在、日本では5000万部の新聞が発行され、135社の新聞社（新聞協会加入数）が報道機関としてテレビやラジオと並んで私たちに情報を提供してくれています。テレビやインターネット、電子書籍の登場によって、紙媒体の新聞など活字メディアの凋落が論じられていますが、部数が減少しているとはいえ、新聞のマスメディアとしての信頼性には高いものがあります。

立教大学では、明治時代の初期の新聞から、戦前の「立教大学新聞」、関東大震災を伝えるロンドンタイムズ紙、朝日・読売などの縮刷版、マイクロフィルムを所蔵しているほか、図書館ウェブサイトを通じて「新聞記事データベース」を学内で利用できます。

立教大学図書館

<展示資料>

- ① 瓦版：「大地震記」嘉永7(1854)年（東京大学社会情報研究資料センター、画像提供）
- ② 「中外新聞」37,38,40号 慶応4(1868)年（立教大学新座保存書庫 大久保文庫より）
- ③ 「うきよ新聞」三益社 1201-1217号 1882年（立教大学新座保存書庫 大久保文庫より）
- ④ 「東京日日新聞」967号 錦絵新聞 明治初期（立教大学 江戸川乱歩コレクションより）
- ⑤ 「立教大学新聞」大正13(1924)年11月5日（関東大震災で修築中の図書館の写真）など
- ⑥ 「Rikkyo Echo」昭和32(1957)年6月（野球部優勝を報じる写真）など
- ⑥ The Times（ロンドンタイムズ）1962年4月28日号
- ⑦ The New York Times 2001年9月12日号（同時多発テロを報じる）



大正13年11月5日付『立教大学新聞』（左）、1957年6月付『Rikkyo Echo』（右）
 ※立教大学図書館「デジタルライブラリ」データベースよりダウンロード

新聞の諸相

立教大学社会部教授 井川充雄

日本における新聞の起源をたどれば、江戸時代の「瓦版」に遡ることができる。ただ、「瓦版」の刊行は不定期で、殺人や心中などの大きな事件や、火山の噴火・大火事などの災害が起きたときに、フィクションも交えて発行されるものであった。右図は、嘉永7年の地震の被害を伝えたものだが、多くの「瓦版」は、このように木版刷りの一枚物であった。



嘉永7年の地震の被害を伝える『瓦版』
(東京大学社会情報研究資料センター画像提供)

いわゆる近代的な新聞が登場するのは幕末期である。ただ、初期の新聞の形態は、下図のように、半紙を用い、一枚板の木版によって摺刷し、それを2つ折りにした袋綴じのものであった。また、当初は外国新聞を翻訳したもので、流通範囲もごく限られていた。



「中外新聞」第 37,38,40 号 慶応4年 1868年

明治に入り、冊子ではなく両面刷りの形態を採用する新聞が登場するが、それにも依然として和紙が用いられていた。現在のように、洋紙を用いた両面刷りの新聞としては、1870（明治3）年12月創刊の『横浜毎日新聞』が嚆矢とされる。明治初期の読者は、新聞の内容もさることながら、洋紙を使った新聞紙の手触りにも文明開化を実感したのではないだろうか。

ところで、そもそも、「新聞」とは、文字通り「新しく聞いた話」であり、英語の"News"にあたる。それに対して、「新聞紙」とは、「新聞」が印刷された、すなわち"Newspaper"であった。つまり、「新聞」は内容で、「新聞紙」は、それを伝えるための媒体（メディア）であった。1871（明治4）年には『新聞雑誌』という刊行物が創刊された。今日の

「新聞」はまさに"News"の意であって、何ら不思議はないのである。しかし、明治20年頃になると、「新聞紙」の意味で「新聞」という語が用いられるようになり、2つの語の区別が曖昧になってくる。これは、日本における"Newspaper"の意味での「新聞」が確立してきたことと軌を一にしていた。

ところで紙形態の新聞は、軽量で日々の配達や購読には適しているが保存には適さない。そこで、新聞を保存し、あとの閲覧に供するために縮刷版やマイクロフィルムが用いられてきた。その後、電子化が進み、CDやDVDのような、その時々最新の技術が用いられるようになった。また、データベース化が進んだことにより、過去の膨大な記事を、容易に検索することが可能になってきた。



錦絵新聞：「東京日日新聞」
(立教大学乱歩コレクション)

今日、インターネットの普及により、紙のメディアとしての新聞、「新聞紙」は大きな転機を迎えている。パソコンや携帯端末上で新聞を容易に閲覧・購読できるようになりつつある。その意味では、新聞の存在形態そのものの根幹が揺さぶられているといっても過言ではない。しかし、これは原義にたしかえれば、「新聞紙」("Newspaper") という形態のメディアの危機ではあるが、そのことは、「新聞」("News") が不要になるということイコールではない。むしろ、ますます大量の情報が氾濫する社会において、人々に正確な情報を伝えたり、権力の動きを監視したり、人々が意見交換する場を提供したりするための「新聞」というメディアの重要性は、ますます増えているというべきであろう。



1962年4月28日 欧米化された日本を報じる
ロンドンタイムズ紙

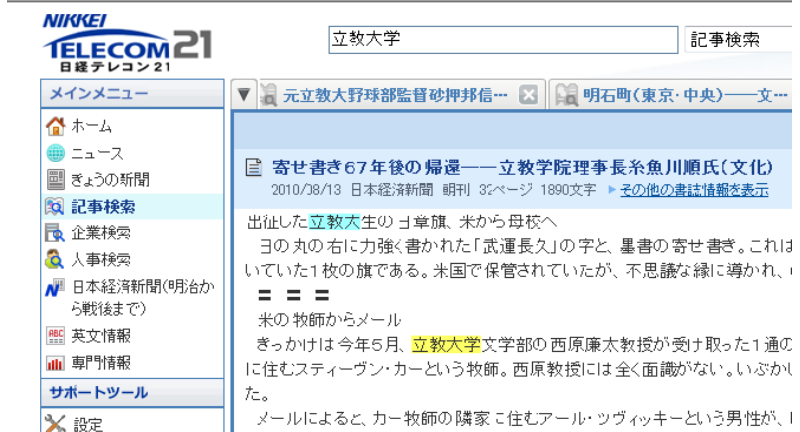


2001年9月11日同時多発テロを報じる
12日付ニューヨークタイムズ紙

【新聞縮刷版、マイクロフィルム】



【日経テレコン新聞記事データベース】



※立教大学キャンパス内（新座含む）では、インターネット上で下記のような新記事全文データベースにアクセスすることができますので、是非ご利用下さい。

